

館長のガラストーク

「生きもののガラス」展

妖精の森ガラス美術館に集まってきたガラスの生き物たちの中で、2階企画展示室の中央ケースに並んだ金魚の群れがひとときわ目につきます。大小合わせて100匹の色鮮やかな金魚たちが、ゆるやかに弧を描いて中央に立つひととき大きな女神のような像に向かって泳いでいます。この立像は有松さんによると「金魚の妖精」で、妖精に関わりのある美術館という展示場所を考慮して新たに制作したものです。

「金魚の妖精」は頭の後にとさかのような（またはポニーテールのような）ヒレを持ち、また、人間だったら両腕に当たる部分、そして妖精の羽にあたる部分が大きなヒレになっています。スカートのような衣服の先端もヒレ状に分かれていて、このヒレの先でしっかりと立っています。

群れ集う金魚たちの方も、大きさだけでなく、顔の向きや表情、ヒレの形などがそれぞれ異なっています。



金魚の妖精



群泳する金魚たち

また、セレンという色ガラスを使うことで、単一の赤ではなく、オレンジ色から濃い赤まで、体全体が微妙な色彩の濃淡を見せています。

これから夏に向かって日ごとに暑くなる季節です。金魚たちの涼しげな群泳ぶりをお楽しみください。

妖精の森ガラス美術館 館長 畠山 耕造

<展覧会情報>春～夏期企画展「生きもののガラス-有松啓介ガラス作品展」
2014年4月2日(水)～2014年9月8日(月)

お問い合わせ先 妖精の森ガラス美術館 電話 (0868) 44-7888

平成26年度鏡野郷土博物館講演会

演題:「こくじん 国人小田草斎藤氏の興亡ー鏡野地域の戦国時代史ー」

講師:岡山地方史研究会 会員 森俊弘 先生

日時:6月21日(土)14:00～15:30

会場:ペスタロッツ館 夢ホール(鏡野町竹田663-7)

主催:鏡野町教育委員会・鏡野郷土博物館

その他:聴講無料 事前申し込みの必要もありません

お問い合わせ:(0868)54-7733(生涯学習課)担当・日下



小田草城跡

小田草城(馬場)を本拠地とし、西屋城合戦にも活躍した地方豪族・斎藤氏の動向から、町内の戦国時代の様子を紐解いていきます。



教育勅語・戊申詔書

奥津歴史資料館企画展「戦時下を語る資料」開催中

奥津歴史資料館では、平成26年度企画展を開催中です。

今回は、昭和の戦時下の奥津地域に関する民俗資料・写真・公文書・軍事郵便・新聞などを展示いたします。是非お越し下さい。

奥津歴史資料館 鏡野町奥津82-1(奥津温泉街北端) TEL(0868)52-0888

開館時間:9:00～16:30 休館日:毎週月曜日・祝日の翌日 入館料:無料